(C)新潟日報社　無断での転載、改変、複製、頒布を禁止します

第３種郵便物認可　(日刊)　新　潟　日　報　2018年(平成30年)9月18日（火曜日）　全面広告　4

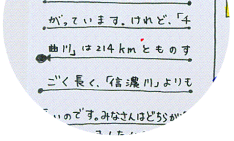
fumufumu

海と川はつながっている　かけがえのないふるさとを　私たちが未来へ受け継ぐ

新潟 NIIGATA & NAGANO 長野　Vol.1

日本一の大河、信濃川は長野県では千曲川、新潟県に入ると信濃川と呼ばれ、日本海に注ぎます。この信濃川でつながる両県から公募で集まった小学5、6年生42人が、海や川を好きになって大切にする心を育む「川もり海もりプロジェクト」に参加。7月21日に、長野、新潟の各会場で事前学習会を行い、8月1日に新潟市に集合しました。川の上流のこと、川の下流のこと、そして海のこと、体験を通じてたくさん学び、新しくできた友だちと一緒に大切に守っていこうと誓いました。

長野の子どもたちが海に感動していたので、ぼくたちは新潟には海があることに、ほこりを持って生活していきたいです。
（新潟市立紫竹山小5年）



日本財団「海と日本PROJECT」は、日本人の暮らしを支えてくれている海を学び、体験し、未来へ引き継ぐアクションの輪を広げるための取り組み。今年、その一環として新潟で行われたプロジェクトを3回にわたり紹介します。
1回目は「川もり海もりプロジェクト・信濃川編」。みなさんもぜひ、海について学び、海へ出かけ、海を好きになってください。

8/1 1日目 川から海へ 新しい友だちと川と海の歴史を学ぶ

長野市をバスで出発した長野の子どもたちは、大河津分水路を過ぎた直後の信濃川が長野市付近の川幅よりずっと狭いことを確認。新潟の子どもたちと新潟市内で合流し、新潟市歴史博物館みなとぴあへ。大河津分水路と関屋分水路で川の水を日本海に流して河口付近の水量が安定するように調節していることを学びました。

お母さんも、友だちも、たぶん海釣りをしたことがないので私が教えてあげたいです。
（長野市立川田小5年）

生き物が暮らす海 体験で実感 環境を守る大切さ

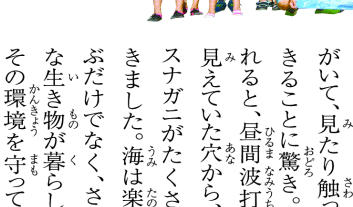
歴史を学んだ後は、グループに分かれて自己紹介や、事前学習会で作ったクイズを出し合い、その後日和山浜へ。海水浴が生まれて初めてだった人もいて、海岸にたくさんの砂があることや、海に魚や貝がいて、見たり触ったりできることに驚き。日が暮れると、昼間波打ち際に見えていた穴から、小さなスナガニがたくさん出てきました。海は楽しく遊ぶだけでなく、さまざまな生き物が暮らしていて、その環境を守ってあげなくてはならないことに気づきました。

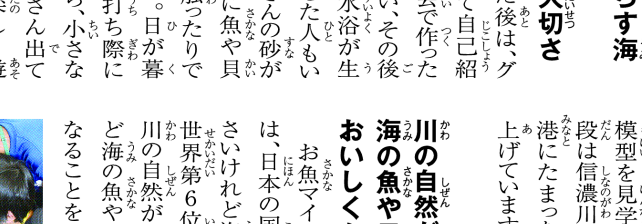
事前学習会 7/21 「源流は何県？」クイズで地域を伝え合う

知り合う前に自分たちの地域をしっかり学ぼうと長野会場では千曲川のこと、新潟会場では信濃川と港のことを学習。

両会場をウェブカメラで結び、新潟からは「浚渫船とは何をする船でしょう」、長野からは「千曲川の源流はいくつの県にまたがっているでしょう」とクイズを出し合いました。答え：川底の土砂などを取り去る船／山梨・埼玉・長野の3県

一番驚いたのは、千曲川が信濃川より長いということです。いつか千曲川の始まりを見てみたいと思います。
（燕市立吉田北小6年）





8/2 2日目 海の安全守る取り組み 専門家から教わる

人工的に波を起こして実験しながら港や堤防を設計できる水理実験場を持つ新潟港湾空港技術調査事務所では、砂の特性を学んだ他、国内に3隻しかない浚渫船「白山」の模型を見学。浚渫船は普段は信濃川を流れてきて港にたまった土砂を吸い上げています。

今まで何も知らずに海で遊んでいたけれど、水理実験場の波の出るプールを見てどうすれば私たちを波から守れるか、考えてくれている人たちがいることを知りました。
（新潟市立女池小5年）

川の自然が豊かだと海の魚や貝がおいしくなる

お魚マイスター講座では、日本の国土面積は小さいけれど海の大きさは世界第6位であること、川の自然が豊かであるほど海の魚や貝がおいしくなることを知りました。

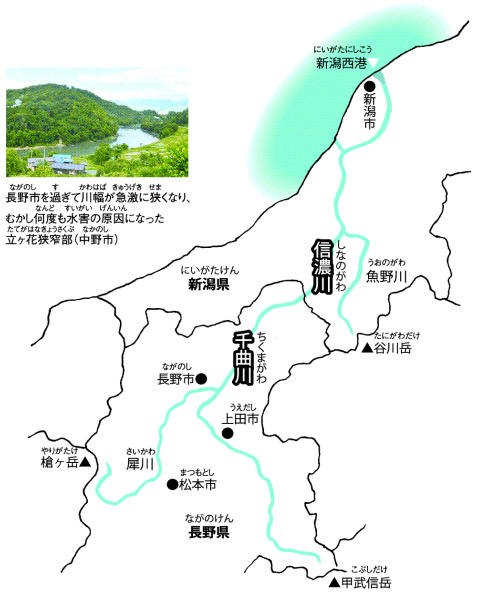
驚きと感動の2日間 いつまでもきれいな川と海を

学習のまとめでは、グループごとに2日間で学んだなかで驚いたことを書き出し、班ごとにベスト5を決定！

少しでも汚れてしまうと音がしなくなる「鳴り砂」を取り戻したい、みんなが安全に遊べる砂浜にするために川からきれいにしたいなど、川と海、そして自分の日々の暮らしの関わりを考え直すようなまとめができあがりました。

次は川の上流に行って、水源を一緒に探してみたいです。
（長野市立三本柳小6年）

その後アジの塩焼きを丸ごと1匹食べました。「魚の骨はある場所が決まっているので、分かっていればおいしくきれいに食べられますよ」と教わりました。



長野市を過ぎて川幅が急激に狭くなり、むかし何度も水害の原因になった立ケ花狭窄部（中野市）

信濃川・千曲川 DATA
●源流「甲武信岳」から河口まで延長367キロメートル
日本で最も長く、水量の多い河川。
●現在流域に暮らす人、およそ290万人。

海のこと、川のこと、もっと詳しく調べてみよう!
日本海
川もり海もりプロジェクト
HPはこちらから

川もり海もりプロジェクト
海と日本プロジェクト2018 子ども流域連携体験交流 新潟×長野

●主催 新潟開港150周年記念事業実行委員会（新潟市2019年開港150周年推進課内）TEL.025-226-2162
●共催 新潟日報社、信濃毎日新聞社
企画・制作 新潟日報社広告局